

今年度調査成果の概要

てらし 寺地遺跡 (西頸城郡青海町大字寺地字大門)

寺地遺跡の調査は、11月2日(金)に終了しました。その結果、調査区西側からは、土器集中区と埋没林が発見されました。土器集中区は7m×7mの範囲で確認できました。出土点数は約600点で、小礫と粘土が混合した層から出土しました。時期は縄文時代晩期ですが、その性格は今のところ不明です。

埋没林は、調査区西側のほぼ全面にわたって広がっています。根・幹などには、切断された痕が認められます。また、そのさいに飛び散ったと考えられる木片も多数出土しています。これらの痕跡は、室町時代以降の開墾によって付けられたものと考えていますが、正確な年代については、今のところ不明です。今後、科学的な分析(年代測定)を行う予定です。また、樹種についても科学的な分析(樹種同定)を行う予定ですが、予備的な花粉分析結果から、杉が多いのではないかと予想しています。

遺物では、縄文土器のほか、磨製石斧や石皿などの石器類が出土しました。また、室町時代から江戸時代にかけては陶磁器類が数多く出土しました。その他の遺物としては、木簡(荷札)や下駄などの木製品、寛永通宝や釘などの金属製品があります。

(佐藤敦史)



土器集中区で出土した深鉢形土器



調査区に広がる埋没林

みちばた 道端遺跡 - 古墳時代の集落跡 - (岩船郡荒川町南新保字道端)

道端遺跡は岩船郡荒川町の西部、南新保字道端に所在しています。乙宝寺のある中条町乙集落からは、北東方向1 km程の所に位置します。発掘調査は日本海沿岸東北自動車道の、荒川インターチェンジの建設に伴って行われました。遺跡の現況は標高3 m前後の水田で、胎内川によって形成された扇状地の扇端部付近に立地しています。南東方向には荒川と胎内川の両河川に挟まれた高坪山が、その南側には櫛形山脈が眺望できます。この地域の地表下には、飯豊連峰に源を発する伏流水の被圧された層があり、その層からの自噴水は「どっこん水」と呼ばれ親しまれています。今年度の調査区にも、近くに昭和の頃の掘抜き井戸があり、調査中も作業員さんの水飲み場として利用されました。



荒川川.C.全景（中央が調査区）

出土した遺物は古墳時代の前期（約1,700年前）と後期（約1,500年前）のものが大半です。他には縄文時代後期（約3,000年前）、弥生時代、平安時代、室町時代の遺物が少量あります。古墳時代の遺物は甕が大半で、時期的には前期のものが多く認められます。他には高杯・器台・杯が少量あり、中には赤彩を施したものや内面に黒色処理を施したものも見られます。縄文時代の遺物は今年度の調査区では非常に少なく、深鉢の破片と石鏃が出土しました。

各時代の遺物の量から、遺跡の主体となる時期は古墳時代であり、道端遺跡は前期と後期の時期に集落が形成されたと考えられます。また、一次調査の結果では、集落の中心となる範囲は時期ごとに分かれることが確認されています。近年まで阿賀野川以北の地域では、古墳時代の調査例がほとんどありませんでした。よって道端遺跡の調査は、当地域の歴史像を把握する上で、貴重な資料が得られるものと期待されます。

残念ながら今年度の調査区は、どちらの時期でも集落の外側部分にあたると思われる、柱穴などの生活の痕跡を見つけることはできませんでした。しかし調査区内では低地にあたる範囲で、甕の破片がまとまった所が2ヶ所程見つかり、何かの意図をもってその場に置かれた可能性があります。（石川智紀）



土器出土状況



古墳時代の遺物出土状況

いわくら 岩倉遺跡 (糸魚川市大字田伏字岩倉)

岩倉遺跡の調査は、10月3日で現地調査が終了し、現在は遺物整理中です。遺物は、土器、木製品、金属製品、石製品など多種多様です。ここでは遺物整理の結果、わかったことを中心にお伝えします。

陶磁器 土器類では、中世（今から約500年前）の珠洲焼（大甕、播鉢、壺）などがあります。また青磁、白磁、染付などの中国や朝鮮半島で作られた陶磁器も認められ、当時の日本海交流の様子が窺えます。

他に古墳時代の甕や、田伏玉作遺跡出土のものに類似する紡錘車などもありました。

土製品 漁に使用する土錘が30点出土しています。大きさや形態からいくつかのグループに分類できます。現在使用している錘などと比較し、錘の使用方法を検討しています。

木製品 食器、信仰に係わる資料、装身具、工具などです。木簡は、1点のみの出土ですが、他に先端が削られ、文字が書かれていないものも数点ありました。

金属製品 金属製品には、刀などの武器、鑿^{のみ}などの工具、馬鋤^{まぐわ}歯先^{はさき}や轡^{くつわ}など農耕に関連する道具があります。多くは中世の所産と考えられます。ほかに、煙管^{きせる}や簪^{かんざし}などの近世初めの装身具^{しこうひん}や嗜好品なども出土しています。

西方約1^キにある田伏製鉄遺跡の遺物と同様の、鉄滓、羽口、窯壁などの製鉄遺構に関する遺物もいくつか認められます。

石製品 前述した紡錘車のほか、石臼の破片、ヒスイの原石があります。また、一般の集落では出土しない石製の硯も1点ありました。

以上、これらの出土遺物は、これまで糸魚川市内では、立の内遺跡や岩野B遺跡などで同時代のものが確認されています。礎石建物の存在や出土の硯、更正図や「寺院神社仏堂明細帳」の調査から、岩倉遺跡は寺院などであった可能性が考えられます。今後遺物の詳細な調査を進めていきたいと考えています。（山本 肇）



木簡など



青磁各種



越中瀬戸・瓦器 など



馬鋤歯先・轡



人形・鳥形・独楽・櫛・漆塗り椀 など

事業団設立10周年記念公開シンポジウム

『第9回 遺跡発掘調査報告会』・『よみがえる青田遺跡』

～ 開催のご案内 ～

開催期日及び会場

平成14年 3月 9日(土)・10日(日)
新潟テルサ(ホール) 入場無料

主催

(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
新潟県教育委員会

日程及び内容

3月9日(土)		3月10日(日)	
時間	日程内容	時間	日程内容
遺物展示は12:30～16:40		遺物展示は9:00～15:30	
12:30	開場	9:00	開場
13:20～14:30	第9回遺跡発掘調査報告会 ・今年度調査成果の概要 ・各遺跡の調査報告 岩倉遺跡(糸魚川市) 寺地遺跡(西頸城郡青海町) 川久保遺跡(南魚沼郡湯沢町)	9:30～12:10	公開シンポジウム・よみがえる青田遺跡 第2部「青田遺跡-縄文人の生活と環境-」 ・高濱信行(新潟大学・地質学) 「湖底に沈んだ縄文遺跡-青田遺跡の立地環境-」 ・鈴木三男(東北大学・植物学) 「青田遺跡の植物的自然と縄文人の植物資源」 ・宮本長二郎(東北芸術工科大学・建築学) 「縄文時代の建築と青田遺跡の集落構成」 ・山田昌久(東京都立大学・考古学) 「木器・木造施設にみる青田縄文人の暮らし」 ・石川日出志(明治大学・考古学) 「青田遺跡の土器を読む」
14:45～16:40	公開シンポジウム・よみがえる青田遺跡 第1部「青田遺跡と縄文文化」 ・発掘調査報告 荒川隆史(事業団) ・基調講演 小林達雄(國學院大学) 演題「縄文世界の青田遺跡」	12:10～13:30	昼食・休憩
		13:30～16:10	パネルディスカッション 「青田遺跡を語る」 司会者 小林達雄(國學院大学) 三上 弥(NHK新潟放送局) パネリスト 高濱信行(新潟大学) 鈴木三男(東北大学) 宮本長二郎(東北芸術工科大学) 山田昌久(東京都立大学) 石川日出志(明治大学) 荒川隆史(事業団) コメンテーター 岡村道雄(文化庁) 卜部厚志(新潟大学) 木村勝彦(福島大学) 坂上寛一(東京農工大学) 辻誠一郎(国立歴史民俗博物館) 永嶋正春(国立歴史民俗博物館) 前山精明(巻町教育委員会)



敷石住居跡(川久保遺跡)

会場位置図



- 車**
- 新潟中央I.C.より車で1分
 - 女池I.C.より車で4分
 - 姥ヶ山I.C.より車で8分
 - 新潟駅南口より車で15分
- バス**
- 新潟駅南口よりバスにて20分
「曾野木ニュータウン」行き
「産業振興センター前」下車
- 駐車場600台完備**

『第9回 遺跡発掘調査報告会』

最近の発掘調査の成果を発表する発掘調査報告会を今年も行います。今年度の報告は次の3遺跡ですが、各遺跡の貴重な発見をスライドなどを用い、解かりやすく説明いたします。また、各遺跡の遺物の展示および説明も併せて行いますので、是非ご覧ください。

岩倉遺跡（糸魚川市）…文献調査から、検出された礎石建物が中世の寺院跡と考えられる。

寺地遺跡（西頸城郡青海町）…縄文時代の埋没林（杉）と旧松尾神社跡と思われる遺構が出土。

川久保遺跡（南魚沼郡湯沢町）…縄文時代中期から後期の集落跡で関東系や東北系の土器も出土。

公開シンポジウム『よみがえる青田遺跡』

第1部「青田遺跡と縄文文化」

平成11年度から発掘調査を行ってきた青田遺跡は縄文時代晩期の低湿地遺跡であり、土器、石器はもちろんのこと木製品、漆製品などが多数出土し、全国的にも注目を浴びている遺跡です。当日は公開シンポジウムという形で調査成果を発表すると同時に、青田遺跡について各分野からの研究報告、さらにパネルディスカッションを行います。これにより青田遺跡の全体像、縄文時代の生活を明らかにしていきたいと考えています。同時に青田遺跡の出土品も展示します。

第1部では発掘にあたった事業団の荒川隆史から発掘調査の報告が行われ、その後、國學院大学の小林達雄氏から青田遺跡の発見が日本の歴史、あるいは世界の歴史に与える意義について、基調講演をいただきます。



たてぐし
竪櫛（撮影 小川忠博氏）

第2部「青田遺跡 縄文人の生活と環境」

第2部では、午前中に、青田遺跡の様相解明のために設置された青田遺跡検討委員会の方々に、関連分野から見た青田遺跡について発表をいただきます。考古学だけでなく、地質学、植物学、建築学などの見地から青田遺跡の興味深い話が聞けます。

また、午後の部では、「青田遺跡を語る」と題したパネルディスカッションを行います。ここでは、青田遺跡検討委員会のメンバーを中心に聴衆者の代表としてNHK新潟放送局の三上弥アナウンサーに参加していただき、「青田ムラと自然環境」「青田縄文人の生活誌」「青田遺跡をめぐる諸問題」というテーマにそって各分野からの分析、討論をしていただきます。



青田遺跡出土の土器群



出土した丸木舟

問い合わせ先

（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
電話 0250-25-3981

〒956-0845 新潟県新津市大字金津93-1 担当：寺崎・鈴木
ホームページ <http://www1.ocn.ne.jp/~n-maibun/>

報告書作成中の遺跡 - はったんだ 八反田遺跡 -

八反田遺跡は、上越市大字寺分字寺田1,521ほかに所在する、縄文時代前期から平安時代、中世、近世の遺跡です。北陸自動車道建設に先立って昭和59・60・62・63年の4年間発掘調査を行いました。

遺跡は平山段丘という周辺より少し高くなったところを中心に、断続的に集落が作られていました。縄文時代は5棟の竪穴建物、平安時代も5棟の掘立柱建物が発見されました。中世は2棟の掘立柱建物しか復元できていませんが、ほかにも柱穴が発見されていることから、本来はもう少し建物があったものと考えられます。中世の生活の一端を知る遺物として、瀬戸や美濃地方で焼かれた天目茶碗・茶入などの茶道具があります。室町時代(1338年～)以降、茶の湯が急速に普及し、特に中国との貿易でもたらされ、「唐物」と珍重された天目茶碗は、瀬戸や美濃の窯でも焼かれるようになりました。当時の人々が茶の湯を楽しんだ風景が浮かんできます。他には中国産の青磁や白磁の碗・皿、漆器の椀や蒔絵の横櫛、糸巻などが出土しています。近世では、江戸時代に加賀藩が参勤交代で使った加賀街道が調査されました。(江口友子)



遺跡全景



大量の食器が捨てられた井戸

出前授業便り - 県立柏崎養護学校での実践から -

事業団職員が要請に基づき、学校現場へ出向く出前授業も今年度で2年目となりました。12月13日に実施した県立柏崎養護学校での出前授業では、参加した皆さん一人一人が意欲的に実習に取り組むと共に、土器や石器などの実物にも熱心に見入っていました。体験や実物を通して歴史を実感する機会として、また、総合的な学習の一環として、こうした出前授業の活用を考えてみてはいかがでしょうか。

学 習 内 容
・ 柏崎の遺跡について
・ 縄文土器の文様（講義・観察・実習）
・ 黒曜石の利用（講義・観察・実習）
・ 火おこしの方法（講義・実習）
・ 学習のまとめ

出前授業の内容



文様つけ実習



黒曜石を使った切削体験

埋文コラム「発掘から見てきた古代のアクセサリー」

ペンダント・ネックレス（首飾り）

人類最古のアクセサリーは、紐を通す孔をあけた動物の犬歯（熊、狼、狐）や貝殻・石のペンダントです。この動物の犬歯が後の勾玉の形に引き継がれていったとする説もあります。

和泉A遺跡（中頸城郡中郷村）の縄文時代中期初頭の層からは、赤色の琥珀製の玉と緑色の滑石製の管玉が出土しています。この2点のように、ペンダントやネックレスに用いられた玉類は、美しい光沢があり希少価値が高い材料で作られています。私たちの憧れる宝石類に通じるところがありますね。



琥珀の玉と滑石の玉（撮影 小川忠博氏）

古代人のピアス（耳飾り）

現在のピアスのルーツをたどると、今からおよそ6,500年前（縄文時代早期末）まで遡ることができます。北魚沼郡堀之内町の清水上遺跡（縄文時代早期～晩期）からは滑石製の環状耳飾が出土しています。写真のように輪の切れた部分から、耳たぶにあけた孔に通して装着していたと考えられています。この環状耳飾りは2つに割れた物を修復して、再利用していた跡が残っていました。



滑石製の耳飾り（清水上遺跡）

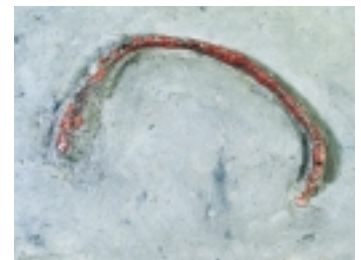


土製の耳飾り（城ノ腰遺跡）

また、耳たぶにあけた孔にはめこんで使用する土製の耳飾りが、小千谷市城ノ腰遺跡（縄文時代中期後半～後期前半）から出土しています。現在のピアスと比べてみてください。縄文人たちは、耳たぶにかなりの大きさの孔を開けていたことがわかります。

ブレスレット（腕輪）

貝製の腕輪は縄文時代前期から愛用されていたようです。福岡県榎坂貝塚（縄文後期）では、貝の腕輪を片腕に29個も付けて葬られている埋葬人骨も発掘されています。加治川村青田遺跡（縄文時代晩期）からは腕輪と思われる赤漆塗りの木製品が10点近く出土しています。今も鮮やかに輝く朱色は、当時の人々の心を魅了したことでしょう。



木製赤漆塗りの腕輪（青田遺跡）

櫛

古代の人々も身だしなみとして、また活動の邪魔にならないように、櫛で髪の毛を整えていたと考えられます。しかし、髪型や刺青（化粧）の様子は、当時の土偶・埴輪から考えて復原するしか方法がありません。青田遺跡からは木製赤漆塗りの櫛が出土しています。この櫛を使って髪をどのようにセットしていたのか、想像してみてもいいかもしれません。



木製赤漆塗りの櫛（青田遺跡）

引用・参考文献

「歴史発掘」 古代の装い 講談社 春成 秀爾

「装身具と骨角製漁具の知識」考古学シリーズ 東京美術 江坂 輝彌 渡辺 誠

「ものづくり考古学 - 原始・古代の人々の知恵と工夫 - 」大田区立郷土博物館 編

県内の遺跡・遺物35

おおさわきょうづか
大沢経塚出土品（昭和56年 県指定）
 遺物出土地：北蒲原郡豊浦町大字下飯塚字大沢662番地

豊浦町の東に位置する真木山の西端には狩野浦山があります。ここは大変眺めがよく、明治初期の頃より地域の共同墓地として利用されていました。明治31年、この墓地の頂上に地藏堂を建立するため整地をしていた際、青銅で精巧なつくりの経筒が発掘されました。この経筒は荒砂と木炭に囲まれ、上部には刀を交差して配置し土で覆われていたそうです。このことから経筒は、経塚の形をなしていたところに納められていたと考えられています。経塚とは経典を書写した物を地中に埋納した遺跡のことです。また刀は、刀身が腐食し寸断状態で出土しましたが、繋ぎ合わせた長さから、2振りと思われる。

経筒の中からは法華経八巻の経文が書かれた経巻が見つかりました。この経文は優れた技法によって作られた和紙に書かれ、その様々な筆跡から多くの人達により書写されたと考えられます。また墨書のもの、墨朱交書のもの、墨朱交書混ざり、この墨朱交書の写経は全国的に例が少なく、極めて珍しいものです。それに経文が刀を添えて埋納されていることから、納めた者は男性であると推測することもできます。

これらの出土品は大沢経塚出土品として県の考古資料に指定され、紙に写経して土中に埋める埋経の経塚から発見されたことや経筒のつくりなどから、平安末期のものとして推定されています。



大沢経塚出土の遺物（奥から経筒・経軸・太刀・経巻）

撮影・掲載許可 豊浦町教育委員会

埋文にいがたNo. 37

発行（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新津市金津93番地1 e-mail: maibun@coral.ocn.ne.jp

TEL (0250) 25-3981 FAX (0250) 25-3986

印刷（株）文久堂